

ゴマシジミ



わたしたちの松本市には「ゴマシジミ」という希少なチョウが生息しています。昔はどこにでもいたのですが、生息環境の変化や過剰な採取により、環境省によって「国内希少野生動植物種」に指定されるまでに数が減少してしまいました。

絶滅のおそれがあるため、環境省や県のレッドリストにも記載されています。

また、平成25年には「奈川のゴマシジミ」として、市の特別天然記念物に指定されました。

「ゴマシジミ」ってどんなチョウ？

ゴマシジミは、「シジミチョウ」の仲間です。とても小さなチョウです。羽の色にはいろいろなタイプがあります。

生息場所

里山の草地

体の特徴

羽の裏側にゴマのように見える小さな斑点がある

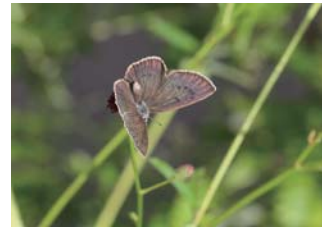
大きさ・色

ぜんしちょう
前翅長：18～24mm
しひょう
翅表：青～黒色

※前翅長…はねを広げた時の前のはねの長さ
※翅表…はねのおもて



青色のタイプ



黒色のタイプ



中間色のタイプ

写真提供：丸山 潔氏

生活サイクル

ゴマシジミは、下の図のような生活サイクルで暮らしています。



希少性

ゴマシジミは、県内では限られた地域でしか見ることのできない希少なチョウです。

レッドリスト

環境省2020年版：絶滅危惧 IA類(関東・中部亜種)
長野県2015年版：絶滅危惧 IB類(本州中部亜種)

条例など

環境省：国内希少野生動植物種(関東・中部亜種)
長野県：指定希少野生動植物(本州中部亜種)
松本市：特別天然記念物

アリとの共生

ゴマシジミは、ハラクシケアリなどの特定のアリと共生しています。アリはゴマシジミが出すみつがほしいため、ゴマシジミの幼虫を巣へ連れて行きます。ゴマシジミはアリの幼虫を食べて育ちますが、体のおいしさをアリに似せるため、アリは仲間だと思い込み、ゴマシジミを攻撃することはありません。

「ゴマシジミ」を保護するために

生息実態の解明

食草の分布やアリとの関係性など、まだ不明な点が数多く、詳細な調査が必要です。

ゴマシジミ成虫の確認例数とワレモコウの確認例数とは高い相関があり、ワレモコウの確認例数が多い地区ほどゴマシジミ成虫の確認例数が多いことが分かりました。



なお、成虫確認例数は、比較的年変動が大きいいため単純比較はできませんが、減少傾向はみられないことから、一定の個体数は維持されていると考えられます。また、ワレモコウの確認例数についても、刈り取りのタイミング等により変動しますが、分布が狭くなるなどの傾向はみられていないため、一定の株数は維持されていると考えられます。

生息環境の管理手法

定期的な草刈りにより刈り取られたワレモコウの花序に、多くのゴマシジミ幼虫が生息していることが分かりました。

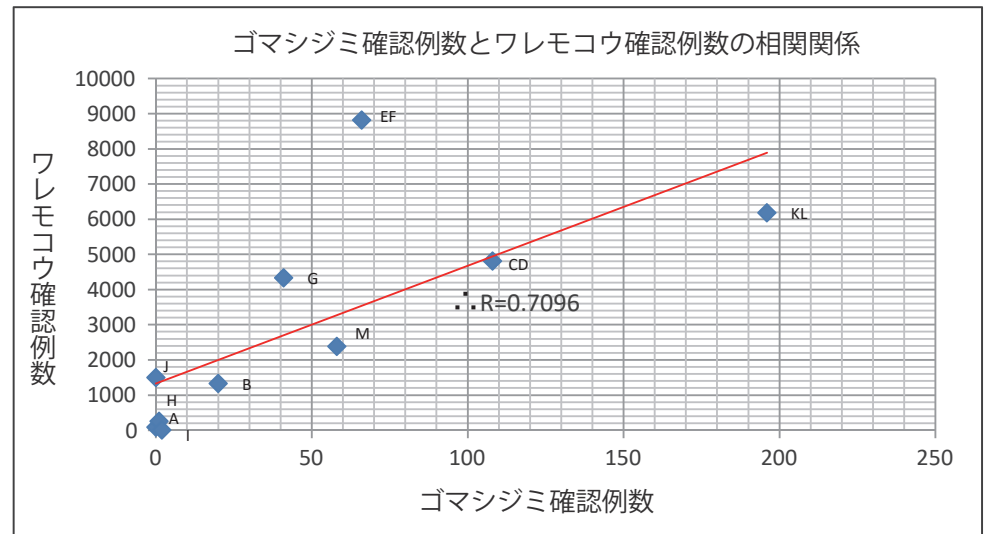
定期的な草刈りにより分布を維持しているワレモコウと、刈り取られて穂とともに消失するゴマシジミ幼虫の関係性を考慮し、農地環境の維持、ワレモコウの生育環境の維持、ゴマシジミ生息環境の維持についてバランスをとっていくことが重要です。



生息地の保全

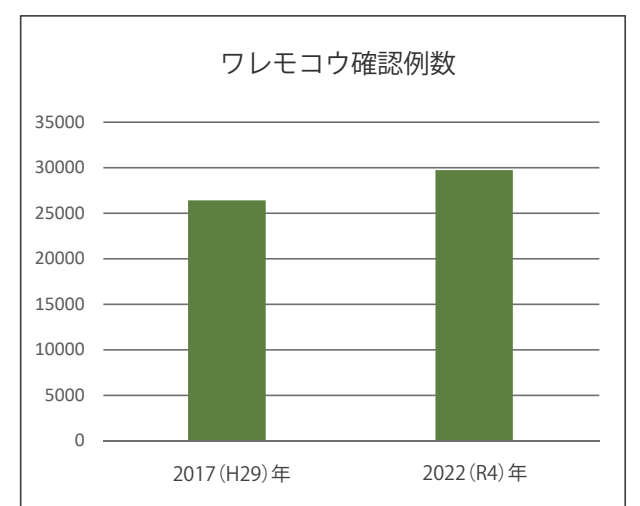
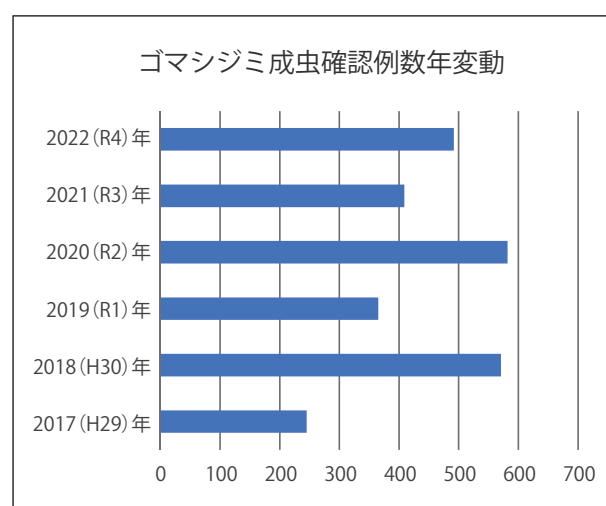
ゴマシジミを守るには、「採らない、採らせない」という意識が大切です。奈川地区ではゴマシジミが違法に採取されないよう、看板を立てるなどの対策を行っています。

また、観察者による踏み荒らし等への対応も必要で、立ち入り規制の看板の設置なども検討する必要があります。



調査では、ゴマシジミ幼虫がハラクシケアリのコロニーにはこぼれる様子が確認されました。

調査地域において、ハラクシケアリなどの分布状況は分っていないので、今後保護を進めるにあたってはアリの分布調査も必要です。



ゴマシジミを採取すると、「種の保存法」により、五年以下の懲役もしくは五百万円以下の罰金（個人）、一億円以下の罰金（法人）が科されることがあります。

■お問い合わせ 松本市 環境エネルギー部 環境・地域エネルギー課
☎ 0263-34-3268 E-mail kankyo-k@city.matsumoto.lg.jp

令和5年3月17日作成